

平成 23 年度奈良県立民俗博物館運営協議会の開催結果について

民俗博物館の民俗資料及び民家の収集・展示・保存等を有機的に行うため、運営協議会を下記のとおり開催しましたので、お知らせします。

- ◆日 時 2012 年 3 月 13 日（火） 13 時 30 分～16 時
- ◆場 所 奈良県立民俗博物館
- ◆出席委員 齊藤 純 天理大学文学部教授
櫻井俊雄（会長） 大谷大学真宗総合研究所嘱託研究員
伊達仁美 京都造形芸術大学芸術学部教授
西岡陽子 大阪芸術大学芸術学部教授
長谷川嘉和 帝塚山大学・同志社大学非常勤講師
森隆男（副会長） 関西大学文学部教授
芳井敬郎 花園大学副学長
吉田晶子 和歌山県文化財審議会委員
- ◆会議公開 傍聴者なし

◆議事概要

- 【議題】
- ・事業報告並びに事業計画等について
 - ・有形民俗文化財デジタルデータベース作成（緊急雇用創出）事業及び「(仮) 奈良県の染織用具及び関連資料」コレクション化事業について
 - ・無形民俗映像資料デジタル化（緊急雇用創出）事業について
 - ・その他（今後の民俗博物館と大和民俗公園のあり方等）について

【概要（主な意見等）】

- ・限られた人員で盛り沢山の企画を実施しているが、どちらかというとし町村レベル。ボリュームのある図録も出ていない。体制的、財政的に難しい時代だが、他と連携してでも県立施設らしい催しの充実によって、集客を図る必要があるのでは。
- ・中学生による職業体験について。博物館の生涯学習施設としての存在意義の側面が認められるような積極的な働きかけも必要。
- ・企画展「大和の昔の暮らし」の展示品について。工業製品の収集、展示は、民具とはどこまでをいうのか、という問題が常にあり難しい。
- ・実施は大変だが、小学生に展示をみせるには、体験・参加ができる催しがあるとよいのでは。
- ・博物館の写真・映像資料は所蔵確認ができない状態のものも多く、デジタルデータベース事業は有意義。館外での活用によって、博物館の PR にもつながる。
- ・ビデオ学習室の映像は、ここでしかみられないものが多く貴重。ビデオ学習室の機器障によって、活用できないのは遺憾。映像をうまく活用すれば集客にも繋げられる。
- ・小学生の集客を考えているのであれば、学校廻りなどによる PR をされてみては。
- ・少子化時代でもあり、また学校をターゲットにした場合、先生の志向に左右されることが多い。この博物館の特色は、公園を持っていること。寧ろ旅行社への働きかけが必要。
- ・博物館のポリシーとして、記録・保存、調査、収集が最も大事。学者じみているといわれても、いうことはいわないといけない。美術品に勝とうと思ふは必要ない。それより市民にこの博物館がなくなると発言してもらうことが大事。
- ・県立博物館の立場でありながら、きめ細かい事業の積み重ねをしていることで、様々な人を集めていると思う。